

二〇二二年六月一日(参加者二名)

手びねりの湯呑みに新茶淹れにけり  
明るさに時計見直す夕薄暑  
渡船場に干物の匂ふ島薄暑  
ゆくりなく新茶楽しむ日を得たり  
百寿僧説法終へて新茶汲む  
縁に売る新茶知覧の武家屋敷  
新茶の香茶筒を開けし瞬間に  
新茶入れ偕老の健喜びぬ  
蟹の路地抜けて展けし海薄暑  
半袖の腕軽やかや街薄暑  
宅急便新茶に一句添へられて  
波消しへ汐打つ匂ひ浜薄暑  
和菓子買ふ店に頂く新茶かな

満天  
こすもす  
うつぎ  
みづき  
かかし  
やよい  
明日香  
菜々  
わかば  
明日香  
智恵子  
わかば  
満天

巫女化粧うなじに残る薄暑かな  
暁光にきらめく波や海薄暑  
リハビリと足並み合はす薄暑かな  
雑草の匂ひにむせる道薄暑  
百貨店あかね櫛で新茶売る  
ふるまひの新茶一ぷく和菓子買ふ  
風化して読めぬ丁石辻薄暑  
選挙カーがなりたてゆく街薄暑  
山影の微動だにせず池薄暑  
待合にワクチン接種待つ薄暑  
存問の一笔添へて新茶来る  
なつき  
素秀  
やよい  
ぽんこ  
やよい  
みづき  
よう子  
もとこ  
宏虎  
なつき  
素秀

WEB句会みのる選・二〇二二年六月一日